

<b>名古屋丸の内ロータリークラブ</b> <b>Weekly Report</b> 例会場 名古屋グレストンホテル TEL 052-264-8000 例会日時 木曜日 12:30 クラブ会報広報委員長 松尾雄二郎 HP <a href="http://rc.nagoya-seinarl.org/">http://rc.nagoya-seinarl.org/</a>		2016-17年度RIテーマ 会長 ジョンF.ジャム  人類に奉仕するロータリー		承認 1995328 会長 森田 正樹 幹事 成田 勝彦 事務局 名古屋市中区栄3-29-1 名古屋グレストンホテル 1007号 TEL 052-263-1324 FAX 052-263-0730 Email <a href="mailto:seinarl@fancyoconne.jp">seinarl@fancyoconne.jp</a>	
<b>森田正樹会長 年度目標 : ロータリーに学び、参加し、楽しもう</b>					

<b>第1026回 例会 No. 26 平成29年 2月16日 (木)</b>	
<b>友愛夜間例会</b>	
■ ローターソング	「我等の生業」「四つのテスト」
■ 出席報告	会員47名中28名出席
■ 出席率	58.29% 出席計算人数41名
■ 修正出席率	2月2日 95.45%
■ ゲスト	映画監督 三木康一郎 様
■ ビジター	岡崎城南RC 九鬼義弘さん (同日サイン受付) 以下 39 名

### 入会式

新会員をお迎えいたしました。会員一同心より歓迎申し上げます。  
 大橋文俊さん (紹介者:小原 優、森田正樹)



只今入会させていただきました、大橋文俊と申します。ロータリークラブにこの度縁がありまして、まさか自分が入るとは本当に思っておりませんでした。

一つ一つ、学びながら、活動を頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。ありがとうございます。

### 会長挨拶 森田正樹

皆さん、こんばんは。  
 本日はとても有名な、久々の大物スピーカーであります、三木康一郎さんにお越しいただいております。  
 そして新しいお仲間が増えました。本日入会となった大橋文俊さん、これから宜しくお願い致します。  
 今日は幹事と、名古屋東山RC10周年記念式典に行ってきました。東山RCは今約32名。私どもよりも会員数が少ないクラブです。その式典で気になる話がありまし

たので、ご報告しておきます。  
 名古屋東分区のあるクラブ会長が時間が欲しいということで、5分間スピーチをされました。内容は、今年新しいロータリークラブが発足するのですが、その事についてのご意見と言うことで、かなり過激な発言をされました。もし今後、クラブ間で意見を求められることになった時に、わがクラブはどちらにつくのか、どちらかに纏めておかないとややこしいことになるなあと思いましたので、次年度の会長は研修ミーティングを通じて、皆さんの意見を

聞いておいていただきたいと思っております。  
 今日は、映画業界の面白い話が聞けると思っています。よろしく願います。

### ニコBOX

●本日は友愛夜間例会です。ゲストの三木康一郎さまより興味深いお話を伺うのが楽しみです。三木様、本日はようこそお越し下さいました。会員一同心より歓迎申し上げます。宜しくお願い致します。

森田会長、成田幹事、矢野、加藤、中野、安藤、西川、成田、森田、岩田、古川、堀江、後藤、山鳥、河原、磯部、田島、小菅、宮崎、長谷川、松尾、有沢、十文字(敬称略)武山さん 本日は東京から日本アカデミー賞ノミネート監督をお迎えしております。名古屋の夜を満喫していただくよう森田会長宜しくお願いします。そしてハッピーバースデー!

小原さん 本日改めて大橋さんの入会式になります。皆様、宜しくお願い致します。

**本日合計 47,000円**

### 卓話

「映画の撮り方」

三木康一郎

今晩は。  
 映画監督をやらせて頂いてます、三木と申します。



名古屋が大好きで、特に錦という街が大好きで、ちょくちょく用もないのにやってきました。この機会と呼ばれて、また錦に行けるんじゃないかと言うことで、鼻の下を伸ばしてやってまいりました。  
 今日は、違う作品の、アフレコという声をとる作業を今までやってまして、高畑充希ちゃんの声を次の作品用にと

ってまして、監督この後どこへ行くんですかと聞かれたので、人たちの前で喋らなければいけないと言ったら、ちゃんとしっかり、威厳をもって話してきてくださいとトトねいちゃんに言われてやってきました。

皆さんどういふ話に興味を持つのかなあなんて考えながらやってきたんですが、多分、映画をどうやって作って最後公開してどうなるのかっていうのを皆さんにお話できれば興味を持っていただけるのかなあと、そういうお話でもよろしいでしょうか。

映画の話をする前に、私の話をする、僕はバラエティのテレビ番組というところから、スタートしました。一番有名なのは、昔、もう二十何年前「炎のチャレンジャー」というテレビ番組で、イライラ棒という電流の間で、バアン！ってやるのを考えまして、大ヒットしまして、そこからうまい感じで人生を送っています。皆さんが知ってる番組というと、「相乗り」という番組を作りまして、ピンクのラブワゴンに若い男女7人押し込んでですね、ほら恋愛しろと言う、そういうすごく剛腕な番組、それからビューティーコロシウムと言う、整形して綺麗になってもらう番組を作りまして、それがだいたい三十歳くらいでした。その後バラエティ番組がつまらなくなり、ドラマの世界に入り今の監督業に至ります。紹介された、去年の「植物図鑑」という作品が偶然にも大ヒットしまして、こういうところにも呼ばれるようになったという感じです。

映画の作り方を話して行きたいと思います。

映画と言うのは、パターンで言うと2種類あります。

俗に言う、商業映画というものと、芸術性の高い映画というもので、僕がやるのは、ほとんど商業映画です。要は、沢山の人のみってもらって儲けるために、悪い言葉ですが、儲けるためにやる映画を沢山やっております。もう一つは芸術性のあるほんとに、監督がこれをやりたいという思いで、コツコツとお金を集めて企画を通してやっていくと、この二つありますが、僕は商業映画しかやったことがないので、商業映画がどうやって作られていくのかを話していきます。

「植物図鑑」を例にとりますと、実は、こういう映画をやりますというのが決まり、さらに主演が決まってる段階で僕の方に監督のオファーが来ました。

「図書館戦争」とか、「フリーター家を買う」という小説を書いてらっしゃる有川浩先生原作の「植物図鑑」、それを映画化するにあたって、主演を誰にするかということで、三代目 J ソウルブラザーズという、今すごく人気のあるグループの一番人気のある俳優を押えて、多分これだったら儲かるんじゃないかと。いやらしい話ですが儲かるんじゃないかということで、松竹映画さんがその企画をやるということで、じゃあ監督は誰にするか、ということで僕の所にオファーが来たというわけです。

僕の仕事は、そういうのが多いです。自分で企画を出してやることは殆どない。誰かがこれをやってくださいと言うスタンスで今までやっています。

今回「植物図鑑」に関しては、レディエイチさんと言うエグザイル、その会社と松竹映画ともう一つ、ホリプロという三社がお金を出し合って映画を作りました。

それが制作委員会という、皆さん映画を見に行った時に

何とか制作委員会なってるのは、あれは殆ど、お金を出している人たちが委員会を作ってお金を持ち寄って、ヒットしたらその配分を受け取るという構図を映画会社がつけているわけです。なので、僕は監督ですけど、どれだけヒットしても興行収入は僕の所に一銭も入ってこない仕組みになっています。

お金を出した人がその配分を受け取るというのが、今の映画会社、映画の仕組みなので、僕はやらされて終わりという流れになっています。

今回植物図鑑、岩田君で多分松竹さんは彼の人気とかそういうのを図って多分10億くらいは行くんじゃないかと。彼を使うことで10億行くんじゃないかという最低ラインを引いて、すごく具体的な話をしていますが、10億は目途が立つ。だから作るというような、発想でやっています。

よく、こういう作品を世に知らしめたいと、こういう思いを皆さんに伝えたいとか、そういうことも映画業界ありますが、やっぱり仕事なので、基本はどうやって儲かるかという中で僕ら監督たちも巻き込まれてやっているという方向の映画、それが商業映画です。

松竹配給で、岩田君主演で植物図鑑という原作でやると決まって、僕の所にオファーが来ます。

じゃあ、相手役もう一人の主人公をどうするかと言われた段階で、ようやく、その目途は見えているので、そこからは、作品を作る僕の自由になってくるというのが大きな流ですね。

なので、今回は高畑充希と言う女優が、そろそろブレイクが来るんじゃないかと言うことで、彼女を選んで、ダブル主演と言う形で、映画を作ったという流れになっています。

映画の成り立ちは、そういう風になっているんですが、撮影に関して、撮影と映画の内容とその全てにおいて、責任は監督に委ねられるという、要は、座組を決めたら最終的に、内容や作品に関しては全て監督が一任にして責任を負わされるという図式に映画業界はほぼなっています。

僕の場合は、10億円以上ヒットしなければいけないとことで、やはりどういう風にそのお客さんが入るかというのをすごく考えて、映画を作るタイプです。他の監督で言うと、こういうものを伝えたいとか、こういうことをやりたいと言う風に作る監督さんもありますが、僕の場合ちょっと変わっていると言われるんですが、たくさんの人にどうやって見てもらうか、どういう仕掛けを作るか、ということをまず第一番に考えて、内容を決めて行きます。

今回で言うと、今日いらしている方々は、若者向けの映画ですから観てる方はそんなにいらっやらないと思いますが、今回に関しては、完全に若い女の子が3~4回観に来ると、若い十代二十代の女の子が3~4回観てくれるような映画を作るという形で、内容とか、撮影方法とか、そういうのを考えていきました。

植物図鑑に関しては20何億という、去年の邦画の実写部門では、3、4位まで興行収入を上げたんですが、おそらく大人の皆さんが行ってもなんだこりゃ？みたいな映画になってると思います。こんなの面白くないぞみたいになるんですが、多分若い子にしてみたら、何回も観

たくなる、恋愛映画を作ったつもりです。

内容としては、女の子目線で全て岩田君イケメン俳優と一緒に住むと言うのを、疑似体験するような話の流れだったり、撮影の仕方だったり、映像の撮り方で、本当に身近に彼が居るような一緒に住んでるような気持ちにさせるっていうような技法で映画を撮っていきました。なので、細かい話をするんですけど、客観で撮るのではなくて、必ず、カメラが女の子の目線になって撮ると言う。そういう手法を取りました。そうするとやはり女の子は映画館でキャアキャア、見事に策にはまるんです。ベッドのシーツに二人で入って向かい合って好きだよと言ってるとこは、映画館がキャー！と言うらしいのですが、それは疑似体験させると言う方向で作っていったからで、何回でも観たくなると言ったような流れはできていると思っています。皆さんが気になる撮影現場は、どうなっているか。すごく時間がかかります。例えば、これを喋っているシーンを撮るとなったら、まず、このセッティングを全部作り、この会にそぐった人を集め、その人たちに、それなりの衣装を着せ、さらに、ボーイさんとか全部作る。その人たちを、よーい！スタート！で、全員動かす作業。話を聞いている人もいれば、ご飯を食べている人も居れば、裏の方で口説いている人も居れば、全部のシチュエーションを細かく、この人はこういう風にさせませよと作って行かなければならない。今僕が喋っている15分20分のシーンを撮るとなったら、多分2日くらいかかります。その前にセッティングが1日かかる。僕が10分喋っているシーンを撮るとなると、丸2日、それも朝から晩まで、やっても終わらないくらいかかります。

もっと大変なのは、雨、雪とか降っているシーンで、雨の日を狙ってやることは一回もありません。雨は絶対止んだり降ったりするものですから。

例えば会長と隣の人が喋っている時に雨が降っているシーンとすると、

まず、カメラ1台しかないの、二人でこういう絵を撮ります。その後、喧嘩してるシーンを撮ります。同じことを今度はこちらからカメラを置いて同じ芝居をさせる。その後、今度会長に向けて、同じ芝居をさせる。それを後で繋ぎ合わせる作業をする。

こっちの時雨が降って、こっちの時に雨が止んでると、映像にすると、急に止んでることになるので、雨の日とか雪の日のシーンは、絶対にこっちで降らすと言う作業をします。

ここに、脚立をこの広さだと4本立てて、ここに棒を這わせて、スプリンクラーがぶあーとなるのを、ずっと奥まで作ります。奥まで作る意味はここにカメラを置いたら、奥まで映るので、奥で雨が降っていないとわかるので、要はこの全体に雨を降らすとなると、全部にスプリンクラーを付けて降らす作業をします。基本は雨の時は全部カッパを持った職人たちが、雨を降らす中で女優さんがずぶ濡れになって撮影します。濡れる前から撮り始め、喋っている間にずぶ濡れにさせたら、今度は乾かしてもう一回する作業になるので、衣装を3つぐらい用意して一回濡らして乾かして、もう一回入れるという作業になるので、実は映画撮影というのは、すごく時間がかかっている

ます。車もあるんですが、車は運転している外からカメラがあると思うんですが、あれはもうトラックで引っ張ってトラックの荷台にカメラを置いて、車をトラックが引っ張って、撮っています。道路交通法違反をずっと犯しまくっている。要は荷台にカメラを置くのは違反なので、多分警察に見つかったら捕まってしまうという撮影方法をやってたりします。

映画を10分撮るのに、大一週間から10日かかるので、撮影期間になると大体1か月半とか2か月間、同じメンバーとずっと一緒に居るとい、凄く辛い過酷な状況が続きます。

監督のギャランティは、映画会社への貢献度で決まります。松竹映画には、山田洋二さんが居ますが、山田洋二さんと一本撮ったらギャラが2~3000万だと思えます。

カメラ3台4台というも撮影方法としてはありますが、1枚1枚撮っていく流れが多いので、明かりも1個1個作って行くので、基本はワンカットワンカット撮っていきたいのですが、それが出来ないときは、3台とか4台用意して、一気に回す手法を取りますが、自分が欲しい映像をしっかりと撮りたいとなると、1個1個絵を作って行くことになります。



新会員紹介		
	氏名	大橋 文俊 オオハシ フミトシ
	紹介者	小原 優、森田正樹
	職業分類	不動産業
	生年月日	1977年7月13日
	趣味	ゴルフ、釣り バレーボール
事業所	大橋商事(株) 454-0850 名古屋市千種区今池 4-10-4 TEL052-733-0123 FAX052-733-4321	

#### 例会のご案内

- ◎2月23日(木)第1027回例会 「ロータリー研修」
- ◎3月2日(木)第1028回例会 クラブフォーラム

安藤正道

先々週くらいに、うちの会社に丹羽宇一郎さんという、元伊藤忠の会長で、中日特別大使をされた方が来られてですね、お話しする機会がありましたので、覚えてる範囲で、その方の言われた話をさせて頂きたいと思います。今、トランプのお話がありましたが、トランプどうなるんだという話を言ったところですね、簡単に言うと、そう簡単には収まらない。ただし、期限ははっきりとっておられましたけども、8か月間くらいかなと、言うようなことを言っておられました。

我々の市場では、大統領就任後100日間というのを、ハネムーン期間と言いますが、この間は国会とか議会でですね、議会の方々も、そう攻撃しない期間というのがありまして、相場も100日間くらいは、強いかないとされているんですけども、丹羽宇一郎さんに言わせると、8か月間くらいは、強いので甘く見ない方がいいぞと。それはですね、アメリカの状況がかなり変化していると。共和党はお金持ち、民主党は貧乏。こういう社会構造、そもそも、これはもう違ってきると。移民連合国家であり、白人が約6割、ヒスパニックが2割、黒人アジア人とゆう形になるんですけども、その60%を占めてる白人の、常に5割弱ですね、この方々の意識は下流意識に変わっていると。要は、自分たちは貧乏なんだという風に変わってるのだと。そう考えると、民主党の支持層はウォールストリート、いわゆるエリート層。共和党は大学を出てない人、白人の中でも下流意識の人達。

こういったところがあり、白人の中でも分裂が起こっている。その人たちがトランプを押し上げる。と言う話をしておられました。

そもそもこの白人の6割が、子供たち非常に少なくなってきたまして、30年40年経つとですね、白人国家ではなくなる。三分の一はヒスパニック系で占める国に代わる。ですので、移民を削減してですね、この構造を変えないといけないということで、トランプの移民政策、良い悪いは別にしても採っていると。

それから、中国の話、中日大使もされておりましたので、中国どうですかと言う話を聞きました。

習近平もですね、このまま中国が今の形で行くとは思っていないと。

我々の市場の世界では昨年ですね、マイケル・ピルズベリという人が、元アメリカのCIAの人が書いた本が、要は2049年に中国共産党革命後100周年を迎えるんですが、その時に中国が政治経済、軍事、これにおいてすべてナンバーワンになるというような計画を裏でやってますよ。と言うような事が大々的に書かれていて、アメリカでも相当ベストセラーになって話題になったのですが。

やっぱり、中国は習近平、伊藤忠の丹羽さん曰く、やはり今の国の形ではなく、今のアメリカのような、合衆国というか、或は、ロシアのような連邦国家の形に変わってる可能性が高いと。

それに向けて、中国は今いろいろ準備していて、習近平の力をやっぱり、相当今強くなってきて、大きく構造

改革する形をとってくると、というようなことを仰ってました。ですので、それが本当に当たるかどうかは別として、今の中国の形が本当に連邦国家になるということも考えながら、今後は中国を見なきゃいけないと言うことを言っていました。

今日本と中国、アメリカの関係もいろいろありますが、そもそもトランプ大統領のトランプ不動産屋さんですけども、一番の顧客は中国ですと。裏では、必ず中国政府とアメリカ政府、いろいろもうすでに手を握っている。日本は全くそれができないので、相当怖いという話をしていました。

要はアメリカも中国も戦争しても誰も特にならないということを分かってますでの、戦争は必ず回避すると。ただしトランプが今後やることは、台湾とか南シナ海、これで脅しをかけて、最終的には貿易をうまくやる形の、まあ武器とか、あくまでも台湾とか南シナ海の問題は自分の国が儲けるためにそこを突いてですね、言い条件を引き出すために使うだろうと。しかもそれは中国とも裏では手を握っているというような話をされていました。

では、日本はどうか？やはり相当危ういと。今の政権もトランプ政権とうまく情報を通する人が誰も居ない。一方で、色々問題出てますが、日本が生きて行く道はどうですか？と聞いたところ、水とか食料。日本は資源のない国ですから、日本が生きて行くのには、そういったのを使って貿易をやっていくしかない。

それを、今日本政府が、その話を丹羽さん、安倍さんとかにも直接よくするそうなんですけど、なかなか分かってもらえないので、ちょっと怖いんだとお話してました。中国、アメリカ、ロシア、三極化もこのまま行くと危ないんですけども、世界のグローバリゼーションの流れはいくらトランプでも止められないということですね、8か月以降、またちょっと大きな動きがあるんじゃないでしょうか。というような話をしていました。

以上でございます。



1月26日職場見学の帰路、「イチゴ狩り」にて  
西川 博さん撮影